

第2回 山口県 新たな時代の人づくり会議 議事録

日時：2019年10月24日（木）9:30～10:45

場所：県庁共用第一会議室

出席者（構成員）：村岡嗣政知事、楠正夫委員、吉村猛委員、岡正朗委員、
加登田恵子委員、三宅紹宣委員、原田尚委員、浅原司委員

出席者（事務局）：総合企画部長（司会）、総合企画部次長、総合企画部審議監
政策企画課長、教育政策課長、義務教育課長、高校教育課長

<会議の概要>

【村岡知事】

おはようございます。

本日はお忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

AI、IoT、5G という技術革新が進みまして、Society5.0 といった超スマート社会が到来しようとしております。また、技術革新に伴うグローバル競争は大変激しさを増しており、これからの時代は今までの常識を越える時代になってまいります。こうした将来の予測が困難な時代ではありますが、山口県の未来を開いていくのは若者であります。若者がそうした時代の中で困難な課題でも挑戦をして、それを乗り越えていく、そうした力を身に付けていくことができるように今後、県が取り組む人づくりの指針となる推進方針の策定を進めているところでございます。

5月には、本会議の第1回目を開催させていただきまして、新しい時代の人づくりについて、皆様方から貴重なご意見をいただいたところでございます。その後、7月と8月に全国で活躍されている、多くの様々な有識者の方々をお招きして、私自身が直に意見を伺う形で、トークセッションを重ねてきました。その中で、これからの時代に必要な資質や能力、あるいは学びのあり方などについて、様々なご提言をいただいております。

後ほど、そうした中身は事務局の方から説明させていただきますが、例えば教育のICT化については、テクノロジーが時間や距離などの制約を解消するとともに、教育の質を高めることで、学びを大きく変えていく可能性があり、これらを活用した環境を作ることが重要となるという意見。あるいは、これからの人材のあり方について、変化を生み出そうとする思い、あるいは一歩踏み出していく力が求められていて、自分自身で地域や社会の課題を明確に捉えて解決をしていこうとする力が必要になること。また、そうした人材が地域で活躍することに繋げるため、高校時代にいつか自分の力で地域や地元をよくしたいという思い、現体験を積むことの重要性であるとか、挑戦を続けている社会人や大学生との出会いによって、憧れの連鎖を作っていく取り組み等、先進的な事例を紹介いただきながら、多くの示唆に富む意見や提言を賜ることができました。

これまでの様々な議論を通じて、山口県の取り組むべき人づくりの方向性がしっかりと見えてきたというふうに考えております。まさに今この機会を逃すことなく、未来に向けての人づくりを進めていかなければならない、そうした意を強くしたところであります。

そして、山口県は幕末、明治の初めにこれまで多くの優れた人材輩出をしております。そうした本県が新たな時代を担う人づくりの先進県にもなれるように取り組んでいきたいと考えております。

本日は、これまでの議論を踏まえて、人づくりの推進方針の素案に向けた中間整理を行いましたので、皆様からこれをベースに推進方針の方向性ですとか、今後取り組んでいく内容などにつきましてご意見をいただければと思います。

限られた時間でありませけれども、忌憚のないご意見をいただきますようお願い申し上げます。開会にあたりましてのご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

【北村部長（事務局）】

本日の出席者につきましては、お手元に配付しております委員名簿により、紹介に代えさせていただきます。山口県新たな時代の人づくり会議設置要項第5条第2項で人づくり会議の議長は、会長をもってあてると規定しておりますので、進行につきましては、会長にお願いいたします。

【村岡知事】

それでは早速議事に入らせていただきます。

本日は、まず新たな時代の人づくり推進方針の素案に向けた中間整理について事務局から説明をいたします。その後、中間整理をベースといたしまして、今後の取り組みの方向性や内容についてのお考え、また盛り込むべき事項について、皆様方からご意見を賜りたいと思います。それでは事務局の方から資料について説明をしてください。

【永富審議監（事務局）】

それでは事務局より中間整理についてご説明をさせていただきたいと思っております。

今回お示しいたします中間整理につきましては、第1回の人づくり会議や知事と有識者のトークセッションでのご意見等をもとに作成をしております。

横長のA3の「資料1」につきましては、これまでいただいたご意見やご提言、課題認識ですとか、取り組みの視点、そして今後の方向性として整理をさせていただいたもので、今回の中間整理の全体構成として見ていただければと考えております。

それでは中間整理につきまして、資料に沿ってご説明をさせていただきます。まず1ページでございます。1ページは新たな時代を担う人材像ということで記載をしております。ふるさと山口に誇りと愛着を有し、高い「志」と「行動力」をもって地域や社会の課題を

自ら発見、他者と協働しながら解決し、新たな価値を創造できる人材としております。

2 ページ、3 ページが、山口県の人づくりに関する現状と課題について7項目について整理をさせていただいておりますので、またご覧いただければと思います。

4 ページ目からが新たな時代を担う人材を育成するための取り組みについて、まとめさせていただいたものでございます。

まず(1)ふるさと山口への誇りと愛着を高める、でございます。

山口県人としてのアイデンティティーの確立、高校卒業までに故郷への誇りと愛着を高めることが必要、とし、また三宅委員のご提言も踏まえて、本県に残る幕末明治維新期の歴史資産等を継承し、人づくりに活用することが重要とさせていただいております。

そして、《ふるさとを学ぶ》といたしまして、歴史遺産を活用した先人たちの志と行動力についての学習が必要。また、若者が地域の大人など、「ナナメの関係」から刺激を受ける憧れの連鎖の創出が必要としております。

(2) 新たな価値を創造する力を育成するでは、

①地域や社会が抱える課題を発見し、他者と協働して解決する力の育成や、楠委員・吉村委員のご意見から、自らの価値観をもとに様々なものに興味・好奇心を持ち、観察し、失敗を恐れずに挑戦し続けることが重要といたしました。また、加登田委員のご意見から、基礎的な知識理解に基づき、課題を発見し解決していくことが必要とさせていただいております。

これを踏まえまして、5 ページに記載した、《人生の縮図体験としての PBL》では、コミュニティ・スクールの仕組み等を生かし、志に基づき課題を見つけ、勝算や正解がない中でも行動する心を育む PBL の実施が必要としております。

また、原田委員からのご提言も踏まえて、《ノウハウの共有》では、発達段階に応じた能力を育成し、そのノウハウを蓄積・共有することが必要としております。

《教職員の役割》では、教員が課題解決プロセスを生徒と共有し、共に楽しむことなどが必要としております。

次に、②の自らキャリアを構築する力の育成では、

今の学びが社会や自分の将来に繋がっていることを伝えながら、全ての教育活動を通じたキャリア教育を推進することが必要としまして、《企業との連携》として、企業等と教育方針や課題を共有して、PBL を実施すること、また企業が持つノウハウをキャリア教育の教材とマッチさせ、社会と結びついたプログラムを構築することが必要としております。

また、《キャリア教育のポートフォリオ》といたしまして、学習状況や成長等を記録し、小学校から高校まで共有することとしております。

6 ページとなりますけども、《学びの習慣化》では、人生 100 年時代を見据え、学び続けることを習慣化するとともに、幼児教育から社会人の並び直しに至るまで切れ目のない質の

高い学びの場を整備することが必要としております。

③グローバルな視野の育成では、

グローバル化の進展等を踏まえまして、志を元に世界に向けた広い視野と身近な問題に目を向ける視点の両方を持つグローバルリーダーの育成が必要、としまして、楠委員のご提言も踏まえ、その育成のために歴史を学ぶこと、海外、外国語でコミュニケーションを取ることが必要としております。

そのため、岡委員からのご提言も踏まえ、《身近な海外交流》として、留学生との交流や ICT を活用した海外との連携など世界との交流が当たり前になる環境作りが必要としております。《海外での現体験》としましては、海外の学生とのワークショップなど世界との結びつきが実感できる現体験が必要としております。

④AI と新しい技術を活用する力の育成では、

吉村委員からデジタル・データ・デザインの 3 つの D の力が必要とのご意見をいただいております。このため、まず、《情報教育・プログラミング教育》では、これらの情報教育の導入に当たり、学校の ICT 環境の整備や企業との連携が必要としておりまして、7 ページでは、岡委員、吉村委員のご提言も踏まえまして、山口大学と連携した《知財創造教育》や《データサイエンティストやデジタル人材の育成》が必要としております。

さらに、《クリエイティブな体験》といたしまして、幼児期から様々なツールを活用して試行錯誤しながらモノを作る体験が必要としております。

(3) 児童生徒の「志」を実現し、地域や時代のニーズに対応した学びの場をつくるでは、①児童生徒の可能性を伸ばし、志を叶える新たな学びの場の創設といたしまして、8 ページとなります。県教委の調べで、中学進学時 100 人程度、高校進学時 50 人程度が進学を目的に、県外の学校に入学し、それぞれ 20～30 人程度が医学部へ進学を希望しております。より高いレベルでの学力向上を目指す子どもたちが県内で切磋琢磨する機会を確保できるよう、希望に沿える教育環境の充実が必要となります。

②教育の ICT 化の推進では、

技術革新が進む中、1 人 1 台のパソコン整備など、教育の ICT 化を進めることが急務であり、《時間と空間を越える遠隔教育》では、中山間地域等の小規模校と大規模校との合同授業の他、海外の若者との交流さらには病気等で通学が叶わない児童生徒が授業に参加できる環境の実現が重要です。

9 ページになりますが、《関係者の共通理解》では、教育の ICT 化に向けた機運醸成等が必要としております。

③コミュニティ・スクールの深化では、

本県では全国に先駆けて、コミュニティ・スクールの導入を進めてまいりましたが、若い世代の参画等の課題もございますので、今後多様な人々が主体的に参画し、地域や学校を変えていけることが実感できる取り組みが必要であるとして、《楽しいコミュニティ・スクール》として、参加できる人が「楽しい」と感じて取り組める仕組み作りや、《「変える」体験》といたしまして、住民が当事者意識を持ちながら自分たちがこう変えた実感できる活動と積み重ねが必要としております。また、《県立高校と所在自治体との連携》といたしまして、高校においても、地域との連携やビジョンの共有が必要としております。

④県内高等教育機関における機能分担と連携の推進では、

10 ページで岡委員のご提言も踏まえまして、《大学等の機能分担と連携》の推進や、《地域をリードする若者の育成》として、大学等と産業界、自治体が連携した取り組みが必要といたしました。また、《リカレント教育》では、地域や企業が必要とする人材教育プログラムと高等教育機関によります学びとのマッチングを図りながら、リカレント教育を促進することが必要としております。また、加登田委員のご提言も踏まえて、《県立大学の在り方》といたしまして、学部学科の見直しも含めまして、人材育成や研究拠点機能のあり方等について、検討が必要であるとしております。

(4) 新たな学びの基盤をつくるでは、

①新たな学びを先導する体制整備といたしまして、教育の ICT 化や情報教育、地域課題の解決を通じた探究的な学び等を学校教育へ導入するためには、それを先導していくための体制整備であるとか、最先端教育の研究、職員の研修等が必要としております。

11 ページとなりますが、②教職員の資質能力の向上では、

学校教育の成否が教職員に負うところが大きく、浅原委員のご提言通り、教職員の資質能力の向上は非常に重要であるとしております。教員の《ファシリテーターとしての役割》を高めるとともに、《新たな教育の創造》として、地域の人々が当事者意識を持って教育にかかわること、さらに《管理職員の研修》が必要としております。

③で推進方針に基づく取り組みの推進と検証と、していますが、

これについては、原田委員からのご提言も踏まえ、取り組みの推進にあたっては、検証を行うという形で考えております。これにつきましては、今後の議論等を踏まえて、最終案でお示しをさせていただきたいと考えております。

以上が簡単でございますが、中間整理についてのご説明でございます。

参考資料として、トークセッションの概要、前回会議の議事録についてもお配りをさせていただいておりますので、ご確認をいただければと思います。

続きまして、資料3となります。

今後のスケジュールについて、ご説明をさせていただきます。

11月2日に第3回トークセッション、11月8日に総合教育会議を開催いたしまして、それを踏まえて人づくり推進方針の素案を作成し、11月県議会にお示しをするということとしております。

県議会のご意見や、来年度の予算編成等も踏まえて、来年2月に開催する本会議におきまして推進方針案を示し、今年度末までにする方針を策定して来年度以降、推進方針に沿って取り組みを推進してまいりたいと考えております。

事務局からの説明は以上でございます。

【村岡知事】

それでは、これからは委員の皆様方から、先ほどご説明させていただきました中間整理をベースに、今後の取り組みの方向性や取り組み内容について、それぞれの皆様の考えや盛り込むべき事項について、ご意見を頂戴したいと思います。お1人5分を目安にお願いをしたいと思います。一巡した後に、またお時間があれば改めてご意見を伺える時間があるかと思っております。順次ご意見をいただきたいと思っておりますが、席順に従いまして、楠委員・吉村委員・岡委員・加登田委員・三宅委員・原田委員・浅原教育長の順番で進めさせていただきます。それでは、楠委員からお願いします。

【楠委員】

今、中間報告を聞かせていただきまして、しっかりとまとめられておられると思います。それで大体網羅されていると思いますが、意見というか、これを指導者の立場あるいは、そういった人づくりに対して、会社でもそうですけども、指導する立場、自発的にいろいろなことをするという学び側の立場、人が育っていく側の立場と両方あるかと思っております。

この指導者を、どう作っていくのかというところが気になるところです。

当社でもそうですが、良い指導者が居るところに、人材が居ることがよくあります。なるべくそれを、波が少ないように全体で教育するが、どうしても時代のリーダーを作っていくという局面で、役に立つのは誰かということになると、指導者のもとにどういう人が育ったかを見ると、やっぱり限られた指導者になっていく、というようなことがありますので、新たな時代の人づくりという視点が、全体のかさ上げと優れた人を輩出、両方の側面もあるかと思っておりますけれども、その辺をいかに作っていくのかなというのを聞かしていただけたらというのが感想でございます。

それから、冒頭、知事がおっしゃいますように色々と時代が変わっていく、大きなターンアラウンドの時代ですので、大変なことを抱え込んでいるという局面でもあるが、もう一度やはり、小さい時からどのように育てていくか、この前ノーベル賞を受賞した吉野さん

がローソクの本を読んで感動したように、芽をどのように発揮するかというところの視点も引き出すことが大事じゃないかなと思いました。感動したこと、気になることを得意と思えること、それと興味のあることに対し集中する時期、それが本人の能力開発の原点にもなりますので、気づきの出発点、原点、そういったものを、伝記、交流、それから身近な指導者との出会い、というようなところ、接点をどう生かしていくかというところが、人づくりの原点じゃないかというふうに感じました。以上になります。

【村岡知事】

ありがとうございます。

指導者の重要性についての話、企業での楠さんのご経験を踏まえてのお話いただきました。資料の最後に、教員の資質能力の向上というところは、項目として入っております。またこれは、教育委員会でもよく考えて貰っていますが、おっしゃるとおり、大変重要な点だと思います。

教員も人手不足の中で大変で、倍率も下がっており、色々な深刻な問題がありますが、しっかりとした人材を確保して、また育てていくべきであるということは大変な重要な視点ですので、ご意見もいただきながら、指導者の育成もしていかなければいけません。

おっしゃられたように、ノーベル賞を受賞された方のお話でもありました、小さなときから興味を持つということ、関心を高める、得意分野を見つけていく機会があった方が良いと思います。

そうしたところの時期、関心を高めていく、あるいは得意分野を見つけていくとか、そういった機会を作っていくということも大変重要だと感じました。ありがとうございます。また後ほど、お時間があればご意見をお伺い致します。

次に吉村委員、お願い致します。

【吉村委員】

吉村でございます。

中間整理の報告につきましては、楠委員と一緒に、非常に良くまとめられていると思いますし、特に最初の人材像につきましては、まさに、素晴らしい表現でまとめられたなと思っております。

その中で私の意見といいますか、繰り返しになるのかもしれないですけども申し上げたい点が3点ございます。

1点目は、人材像に書かれておりますように、地域や社会の抱える課題を発見して、他者と協働して解決する力、これを身に付けないといけないと思います。これは第一に、育成の条件、方向性としてしっかりやっていくべきだろうと思っております。

山口県は、これから日本で出てくる或いは世界で出てくる社会課題の、良い意味・悪い意味も含めて、先進県であると思っております。そのために、この地域から出てくる課題を解

決すること自体が、いわゆる成長産業に繋がっていく、成長ビジネスに繋がっていくと
思っております。

よって、社会課題を解決するビジネスを生み出すか力を持った人材をいかに生み出すかが、
山口県にとって、また日本にとっても非常に重要なものになるのではないかと考えていま
す。

それから2点目は、地域の経済を考えると、知事も先程おっしゃいました、グローバルな
視野をいかに入れていくかと、海外の成長力をこの山口県の中いかに取り込んでいくか
ということですので、一つは、インバウンドをどうやって増加させていくか、またもう一
つは地域ビジネスをどうやって輸出していくかということだろうと思います。

そのためにはやはり語学力だけでなく、異なる価値観を持った人といかにコミュニケー
ションを取るか、その多様性にどのようにして対応していくかという幅広い能力が必要に
なってくると思っております。

それから3点目は、3つのDということを取り入れていただいておりますが、今朝も新聞で、
量子コンピューターの実証に Google が成功したと出ていたと思います。スーパーコンピュ
ーターが1万年かけて解決する問題を3分20秒で解決する量子コンピューターの世界が到
来するというので、デジタルの世界がものすごい速度で進んできていることは事実であ
ります。このデジタルの世界が進んでくるとは、結局クラウドコンピューターも含めて
データ処理をする速度、力がものすごく大きくなるということで、これから AI、IT とい
ったものがますますこの人間社会に幅を広げて来る世界です。

そういった時代は、ご案内の通りですけど、VUCA の時代という不安定であり、不確実であ
り、複雑であり、曖昧であるというその英語のスペルの上を取った VUCA の時代が来ると
言われていますが、この VUCA の時代にいかに耐えうる人材を育てていくかということであ
らうかと思っております。

既存の答えのある問題を解決するのではなくて、自らこの変動する時代の中で問題を見つ
け、その問題を解決する力を、AI やデータを使って解決していく力を身に付けなければな
りません。ただそのためには、このデータ・デジタルを人間がどのように使いこなすか
ということが非常に重要になります。

今、我々銀行員も AI ができたら銀行員はもうほとんどいらなくなるというようなことを言
われています。実はそうではなくて、我々が何をしなきゃいけないかという、これからの
金融いかにあるべきかという構想力、これがいわゆるデザインの力だろうと思いますが、
実はこうすべきであるとか、こうあるべきとかという理想、言葉でこちらの人材像で言え
ばで「志」をしっかりと打ち出せるような力、交渉力を打ち出せるような力こそがこれか
ら求められていくのではないかなと思っております。

その構想力をいかにして導き、作り出していったらいいか、ここにも色々書かれていま
すが、結局歴史等も含めたリベラルアーツをしっかりと作っていく。リベラルアーツの教育こ
そが、やはり若い時代から大変必要になってくるのではないかなというふうに思っており

ます。

以上、3つを申し上げまして、私の意見とさせていただきたいと思ひます。

【村岡知事】

ありがとうございました。様々な重要な意見をいただいたと思ひます。

課題解決力、新しい価値を創造する力が大変重要だということと、世の中がどんどん変わっていく中でグローバルな視点や、AI とかデータとかを使っていかなければならないし、またそういったものがどんどん人間に代替する中で、人が何の価値を持っているのかというところですね。銀行も直面されている課題に対応して、ご意見いただいたところであります。

リベラルアーツの重要性ですとか、大変重要な視点でございました。

ありがとうございました。

それでは、続きましては、岡委員お願い致します。

【岡委員】

ありがとうございます。

まず society5.0、吉村委員が言われましたように、この時代にどのような教育をしていくか、若者を育てていくかという公式はなくて、どうやっていいか分からない状況ではありますが、人類は創造性とチャレンジ精神は元々持っているといふ一般的に言われています。

これを若者が失わないようにしていく、こういう教育が必要になります。

今、VUCA の時代ということで、若者が自信を失っている、それから非常に安易なところに手を伸ばしたがるといったことがあるので、大学ではできるだけ自分にチャレンジをするような機会を与える必要があります。それは留学にしても、何にしても違う世界に飛び込み、そして自分で考えると、みんなと一緒にそれを乗り越えるというこういうことは永遠に必要だといふふうに思っています。

また技術や知識は、これを統合する能力がすごく必要だといふわれています。それに一番重要なのは、社会倫理、日本の国、周りのコミュニティー等、自分だけではなくて周りが幸せになるというようにすることが必要だといふ教育を今からしないと、地球温暖化とか色々世界で起こっている中に、若者が自分たちの力を発揮できないのではないかと思われますし、そういうことが求められているような状況だと思ひます。

また、今ではダイバーシティっていうのが国立大学に求められております。まさにダイバーシティが全部項目にもついているようなことになっておりますが、もともとダイバーシティと言っても色々な人をセットしながら、色々な人の能力を一緒にして、そして新しいものを作っていくというのが、ダイバーシティであって、いわゆる一つ一つの例えば、工学とか医学とか、一つの分野だけで新しいものを作るという時代はもう終わっていますし、

日本人だけでも作るというのはどうに終わっています。

それにはどういう教育を新たにしていっていいのか、例えばダイバーシティ教育をどうしていくのか、文理融合というふうに言われていますけども、実際にカリキュラムについても、大学ではできるだけ幅広いカリキュラムを作っていく必要があるわけです。

一方で、非常に予算が削られている中で、教員が減っている中でカリキュラムをどのように構築するかというのは、ある意味、県内の大学が協力をして、様々なカリキュラムを受け、それぞれの大学の学生がそれを受けられるようにできるというのは、多分すごく魅力的じゃないかなと思います。

これが総論で、大学としては、県内の小中高大連携が極めて重要でありまして、もちろん知財教育、データサイエンス教育は大学としても得意の分野ですので、連携をしていきたいというふうに思っています。それ以外に、学生との交流というのも一つの大きな切り口ではないかと、もっともっと大学生と交流した方が良い。

もう一つは、大学高等教育の地域でのあり方という一つの問題があるわけです。

今言われています地域プラットフォームは、ガイドラインが令和2年3月ごろにはできると私の方には報告がありましたが、その中で山口県をどうしていくのかということを実際に具体的に話し合う必要があります。これは避けて通れないわけで、人口減少とかそういうこと、それからさっき言いましたように非常に多様なカリキュラムを若者に提供するか、そういうことを考えると、これを早く議論の中に持って行く必要があります。すなわち、大学と企業と自治体とその三者が、しっかり山口県での高等教育の未来を考えていくということ、方針を出していくこと、グランドデザインを作っていくということが極めて必要になってくると思いました。

その中でCOC+に取り組んでまいりましたけれども、更に教育プラス地域の企業への貢献も含めて、この2本立てで新たなCOC+のような形で、県内高等教育機関が協力するということがある意味一つの大きな教育の柱になるというふうに思っています。

山口を知って、山口を好きになって活躍するということが、県内の進学率が非常にまだまだ低いということで、県外の学生に対し、どうやって県内に残ってもらおうかということ、これは大学の教育の一つですので、ここで議論されている山口県で生まれてずっと育っていく若者以外にも、大学としてはよそから来た若者についてどう考えていくかということが一つの柱になろうかと思っております。

また、リカレント教育についても、プログラムをもう少しわかりやすく、報告にするつもりでおりますけれども、いずれにしても、県内の小中高大の連携とそれから地域プラットフォームの形成が急がれるということを感じました。以上です。

【村岡知事】

ありがとうございました。様々な視点でご意見ご提言いただきました。チャレンジする気持ちを将来的にしっかり伸ばしていかなければいけない、また小中高大の連携、それから

大学間の連携、地域プラットフォームの形成、企業や自治体との連携も含めてお話をいただきました。

ガイドラインが国から示されますが、私も以前から岡さんとこの問題意識について共有しているところです。国のガイドラインが出てきたら、参考にしながら、是非良い形を一緒に作っていただければと思います。よろしく願いいたします。

ありがとうございました。それでは加登田委員。

【加登田委員】

よろしく願いします。

今回の中間報告が本当に多岐にわたる中、フォーラムの色々な方の知見も良い形でよくまとめられていると思います。

ふるさと山口への誇りと愛着がベースにあって、そこに「志」という方向性を持った挑戦力が入って、思うだけではなく行動するという三極が明確に書かれており、分かりやすいと思いました。

私は教育の目標として、主体性と柔軟性と創造性と協調性ということをよく挙げていますが、主体性というところが挑戦する力に入ると思いますし、課題発見にもつながりますし、柔軟性というのが、他と協働する力でもありますし、ある意味では自己変革をしていく、自分が挫折しても対応を柔軟に決めていけることがあります。創造性は書いてあるところです。協調性は他者と協働する力に入っていると思います。

ただ少し気になるのは、資料 1 の右側の一番上のこれからの時代に必要となる力、多分コンピテンシーのレベルで、非常に具体的に身につける力というレベルでよくまとめられると思いますが、この中の基礎的な力っていうのが、吉村委員が先ほどおっしゃったリベラルアーツという知識だけではないところかなと思っています。うまく申し上げられないですけど、この力の中に例えば、体力、感性というのはどういうふうに落とし込めるのか、やっぱり小さいときから人づくり全体からすると、オリンピックのアスリートではないですが、基本的に生きる力、体力をつけることも重要だと思いますし、それから他者と協働する力に入るかもしれませんが、楠委員がおっしゃったようなワクワクする感じとか、発見する喜びであるとか、他人の痛みを感じるとか、そういった感性の部分も落とし込んであれば、良いかなと思います。

それから 2 番目のアイデンティティーの確立のところも、山口で生まれ育って残った、愛着ということで、歴史を学ぶということは非常に重要だと思います。

私も歴史が好きなので、山口県の基本だなと思いますが、ふるさとに対する愛着は、モデルとなり、心に繋がる人との出会いと、前回もちょっと申し上げましたが、やっぱりこの豊かな自然と出会いもあるのではないかなと思いました。

自然との出会いをなぜ挙げるかというところ、この山口県人の先輩との出会いと自然との出会

いというのは山口ならではのところであると思います。山口の方は緑が溢れているから評価されないですが、無いと分かれば本当に素晴らしい素材と再認識して、多分それが小さなお子さんたちの原風景になるのではないかと思います。

3 番目ですが、IT 等のテクノロジーには、society5.0 を生き抜くために、必要不可欠な力になるかと思いますが、テクノロジーは、目的ではなくて、やはり使うものであります。それをどのように活用させていくか、ただパソコンやデータの速さとか何とかではなくて、やはり常にテクノロジーは、学びと繋げていく、これが非常に重要なことだと思います。

私が素晴らしいと思いますのが、山口市の YCAM で、子供たちのためのロボット講座とか、いろんな先進的な開発的な教育プラン、プログラムを試みていらっしゃることです。

例えばこの間、開催されたのは、山口の林に行つて子供たちが落ち葉をいっぱい取ってきて、落ち葉の図鑑でいろいろ調べてみるということがありましたが、集めた落ち葉の DNA 分析まで実施していました。それが自然の学びによるテクノロジーとそれから今の子供たち知的好奇心をくすぐる仕掛けだだと思います。是非、そのような試みを全県的に広げて欲しいと思います。

県立大学でも、最低限の環境はパソコンですが、学生たちはパソコンじゃなくて携帯の世界になっていました。道具を使いこなすという、それからどういうふうに学びを深めて活用できるようになるかっていう視点を溶かし込んであるとは思いますが、是非書いて欲しいと感じました。以上です。

【村岡知事】

ありがとうございました。

まとめている中で、意識をして取り組んでいかなければならない事について、ご意見・ご提言いただきました。ありがとうございました。

基礎的な力というところをもう少し深くですね。どのようにしていくべきかを考えていかなければいけません。体力とか感性というのは、大変重要なことでもあります。

もう少しこれを実際を書いていく、あるいはその具体化していく中で意識していかなければならないと思います。山口県ならではの部分である自然との触れ合いとか、そういったものへの重要性、そしてテクノロジーを単に使うだけではなく、学びを含めて利活用するというところと、知的好奇心と結んで、その先の目指すべきところについてご提言をいただきました。ありがとうございました。

それでは、続きましては、三宅委員。

【三宅委員】

今後取り組みということで 3 点ほど具体的なレベルの提案をさせていただきたいと思っております。

1 点は、まとめにある (1) ふるさと山口への誇りと愛着を高める。

そのために発達段階に応じた学校教育や、学習活動プログラムが必要という課題です。これについて 1 つの参考として、広島県教育委員会が作成した本なのですが、グローバル社会に対応するためにということで、日本の歴史・伝統文化を考察し、紹介しようという資料集です。

私もこの作成に関わったが、県立学校の生徒に日本史や伝統文化への興味関心を持ち、それから理解を深めてほしいと、そういう願いで作成しました。

さらに県立高校の生徒が姉妹校との文化的な交流、それから留学や訪問のときに広島の文化財や、人物を紹介する、そういうふうにも役立つということを念頭に置いていました。

内容は東アジアと日本、世界の中の日本、それからキーワードで読み解く日本史、という三つのテーマの 10 章で構成します。

作成に当たっては、県立高校の教員 10 名に執筆を依頼し、県教委や、広島大学の教員が検討部会から監修をしたということでできましたが、これらの作成の過程で、例えば、県職員の研究資質能力の向上、それから郷土の歴史と人物研究を進展、それが期待できると思います。それからまた、教育実践の過程で生徒の郷土を愛する心を育てる、あるいは、国際交流の中で自国の歴史を紹介したり、それから、外国の歴史を聞いたりすることによって、多文化理解の進展、そういうことも期待できるかと思います。

それから第 2 点は、(2) のまとめにあります、新たな価値を創造する力を育成する、という課題ですが、課題を発見し、調査し、それから学びを習慣化し、生涯を通じて自ら学び続けるためには、やはり図書館の役割が非常に重要になってくると思います。

近年、図書館の改革が進んできて、新しいタイプの図書館ができつつあります。

私が行った徳山駅にある図書館に行ってみますと、高校生が飲み物を飲みながら、非常に楽しそうに勉強しているという姿が非常に印象的でした。非常に将来頼もしいと感銘を受けましたが、柳井市でも新しい中央図書館が建設中ですが、その中に話し声程度の音が許容されるエリアというのがちゃんと設けられています。そうすると、グループ研究が可能となる、さらには勉強が楽しくなるような環境、そういう様々な工夫されている。やはり高校生あるいはもっと下の学年からも図書館に行くのが楽しいと、そういうふうな人材が育ってくれるのではないかというふうに思っております。

これは外国の事例ですが、ロンドンではさらに、大胆な図書館の改革が進んでおりまして、図書館のコンセプト、これはもうライブラリーではなくて、アイデアストアというコンセプトの図書館ができています。館内にはコンピューターがずらっと並んで、情報は図書だけではなくて、様々な方法で、そこで情報を得て勉強する。そういうふうに変ってきております。こういった先進的な事例に学んで、従来の図書館に対する発想を転換して、図書館の改革に取り組む、それによって課題の達成が期待できるのではと考えております。

それから 3 番目は、(2) の課題を発見し、解決する力の育成という課題ですが、

これについては、広島県立の中高一貫校である、広島高校の事例を紹介したいと思います。広島高校では授業の中に卒業研究、卒業論文の作成があります。これは、生徒が自らテーマを見つけて研究し、最後に発表会を開いて、卒業論文にまとめるというのですが、この卒業論文発表会では、指導助言する人物が、広島大学から毎年派遣されて来ておりました。

私も院生に頼んで、何度か行ってもらった経験がありますが、そういうふうに大学と高校との交流、それもできると思います。

この広島高校の卒業研究は、全国的に随分注目されていて、熱心に取り組まれて、定着しています。その結果として、東大の推薦入試の合格者数が、これまでの合計で全国 1 位であった。これは東大の求める新しい人材にマッチしていると思います。

もちろん推薦入試対策を目的で行ったわけではなく、これはあくまでも一つの結果ですが、課題を発見し、解決する力を育成するという事例の参考になるかと思います。

以上です。

【村岡知事】

ありがとうございました。

広島での色々な事例もご紹介いただきながら、様々な重要なお指摘をいただきました。ふるさとへの誇りを持つ教育で大学高校の教員と一緒に、論文を作っているいは、新しい価値を創造する観点から、図書館の役割の重要性とか、あるいは高校で卒業研究に取り組んでいて非常に成果を上げているというお話をいただきました。

いただいた点もしっかり踏まえて、これから取り組みを是非行っていきたいと思います。ありがとうございました。それでは次に原田委員。

【原田委員】

前回の会議それから、この中間整理の中で、特に印象に残っているのは PBL、課題解決型学習という部分でした。中間整理の 4 ページですが、他者と協働して解決する力、次の 5 ページの自らキャリアを構築する力、そういった力を育成する上で大変有効ということでありましたし、さらに、地域の実際の課題に地域の大人と一緒に本気で取り組むことによって、ふるさとの未来を自分で作りたい、そういう意識付けに繋がるという話もありました。そういったことを踏まえて、課題解決型学習の推進、これが推進方針の中の取り組みの柱の一つになるのではないかと思います。その際に、推進に当たっては、課題解決型学習が高校・大学を中心に、学校教育の中で積極的に取り組まれるようになりまして、そういう方向を目指すことが大事だと思います。

それによって、この 5 ページの中ほどにあるように学校にノウハウが蓄積されますし、共有され、教職員も自らの役割の理解が深まっていく、そうして時を追うごとに充実していく、そういった課題解決型学習がより多くの学校で展開されるようになって、結果として、

たくさんの子供や若者に課題発見・解決力、ふるさとを支えていこうという意識を育成する環境が整うことになると思います。

県内では既に大学や専門学校などで、前回、岡委員からご紹介がありましたCOC+のような取り組みの中で、課題解決型あるいは地域協働型といったような様々な取り組みがあることを聞いておりますし、公立の小中高校ではコミュニティ・スクールによって地域に積極的に出ていく教育活動が盛んになっています。

高校では、自治体、企業等と連携した課題解決に向けた探究的な学びといったものも始まっています。

トークセッション中では、隠岐島前高校の島を挙げての先進的な取り組みといったものなども紹介されていましたが、今回のこの推進方針を、教育関係だけではなく、山口県を挙げて取り組むということですので、先進的な取り組みを参考にしながら、学校だけでは実現できないような新しい仕組みとか方向、そういったものも取り入れて、学校でのいわゆる課題解決型学習の充実、そして普及を強く後押しする、そういった政策ができたらいいなと思います。

それから、4ページの最後から5ページの冒頭にかけて、失敗を恐れずに挑戦し続ける力とか、チームのために汗をかく気持ち、コミュニケーション能力といったような課題発見、解決力の育成に必要な力、マインドといったものが記されています。

こうしたものは、課題発見、解決力にとどまらず、いろんな知的能力を吸収する上での基盤となる力、というものです。そういった力を育成するということでは、先ほど加登田委員からありましたが、自然の中での仲間との体験活動、そういったものも大変有効だと思います。前回加登田委員から、山口県が先進的に進めてきた青少年自然の家など、自然環境を活用する教育が、これをもっと活かしていくことが必要だろうとお話がありました。私たちひとづくり財団は指定管理者という立場から、青少年自然の家など体験活動を行う社会教育施設を運営しております。今後、推進方針を踏まえた上で、学校の宿泊学習や子ども会などの社会教育活動での利用促進を働きかけたり、財団みずからも、これらの広報活動をさらに行ったり、基盤となる力を育むという取り組みを行ってまいります。

それから最後になりますが、中間整理で10ページ、(4)①《新たな学びを先導する体制整備》の関連です。前回のこの会議でも少し触れましたけれども、人づくりへの取り組みというのは、やはり専門的な知見による点検や評価の改善の繰り返しが大変大事だと思っております。その繰り返しの中から、効果、成果の大きい取り組みが生まれ、それが山口県らしいプロジェクトに育っていかだらうと思います。したがって、山口県の実情又は取り組みなどを踏まえて、継続的にそのPDCAを回し、山口県教育を先導していく、いわゆる審判的な役割を果たす体制。そういったものがぜひ必要ではないかと思えます。

以上のような方向性を重視しながら、ひとづくり財団としてもブラッシュアップに向けて、さらに協議を重ねまして、来年度から新しい取り組みを積極的に展開していきたいと思えます。

【村岡知事】

PBLの重要性は、山口県コミュニティ・スクールの整理も進んでいますので、そういったものを活用しながらより充実したものをやっていけると思います。

また、あの自然の中での学んでいくことの重要性、そして体制整備をして、シンクタンク的な体制の整備との重要性についてお話をいただきました。ぜひこれを実現する段階で、ひとづくり財団の方でいろいろお力添えいただければと思いますので、是非ともよろしく願いいたします。

ありがとうございました。それでは次に、浅原教育長。

【浅原教育長】

浅原でございます。よろしくお願いします。

最初に、先ほど最初に楠委員さんの方からお話がありました、人づくりには、指導者をどう作っていくかが大切であると、素晴らしい指導者のもとで人材が集まっている、まさにそのとおりだと思っています。

教育の分野で言えば、指導者、いわゆる教員になろうかと思えますけれども、教育の職の魅力をしっかり子供たち伝える中で、教員となる人材を育てていく、まず育てていく必要があります。教員は素晴らしいなということで、そうした人材を育てる、そして、適切な方法で確保し採用する。そして、そうした採用した人材をさらに研修で育成する、そういった取り組みを進めておりますが、是非これを引き続き充実させながら、取り組んでいきたいと思っております。

それとこの中間整理ですが、基本的には第1回目の会議であるとか、あるいはトークセッションでの意見・提言等を踏まえながら、しっかりと作り上げられているというふうに考えています。

その上で、2、3点お話をさせていただきます。

資料の7ページから8ページにかけてのあたりですが、7ページの一番下に児童生徒の可能性を伸ばし、「志」を叶える新たな学びの場の創設とあります。具体的には8ページの上から三つ目の黒い点で示されておりますが、9月の県議会の方で中学校・高校の進学段階で進学校目的とした県外流出、これが問題として提起をされました。

そこに記載されておりますように、あるいは先ほど説明もありましたが、本県では、年によって変化はしますが、中学校の進学段階で100人ぐらい、高校進学段階で50人ぐらいといった子供たちが県外の学校に進学目的で進んでいるということで、その中には、医学部医学科への進学を志す子どもたちも、一定数含まれているということでございます。第1回目の会議で山口大学の岡委員さんの方から、県内の若手の医者数が減っていると、さらに平均年齢が全国的に見ても大変高いというようなご報告もありました。県外に流出する子供たちの影響により、将来の医師不足に繋がる懸念もあるということです。

現在、県教育委員会においてワーキンググループを設置しながら、児童生徒の実態であるとか、あるいはニーズの把握、さらに、子供たちの進路希望の実現に向けてどうすればいいのか、そういった方策等について検討を進めています。

それから 2 点目ですけれども、同じ 8 ページのその下の②の《教育の ICT 化の推進》ということですが、先程、加登田委員さんの発言にもありましたが、この ICT 化につきましては、言うまでもなくこれからの教育にはなくてはならないアイテムだと考えております。society5.0 と言われますけれども、こういった時代を子供たちが生きて行くためには ICT とか AI とか、こういった技術をしっかりと道具として、アイテムとして使いこなし、新たな価値を創造する、そういう力を身につけることが求められていると思います。こうした先端技術の活用というのは、一人一人が能力適性に応じて学習を行うとか、あるいは他人との協働的な学びであるとか、さらには、遠隔教育であるとか、遠隔授業であるとか、時間や空間を超えて色々な人々との考えに触れる機会の実現に繋がるということです。将来に繋げていくためにも、本県においても、是非早期に整備をしなければいけないと考えているところでございます。

最後にもう 1 点だけ、先ほどお話がありました、次の 9 ページのコミュニティ・スクールでございます。

本県では、取り組みを進めておりまして、来年の 4 月には、県立高校も含めて、県内全ての公立学校がこのコミュニティ・スクールになる予定でございます。

今後は、小中高特別支援学校等の、学校の校種間の連携の促進であるとか、さらにはこれまでの取り組みを進化させることで、先ほどからお話がありますように、ふるさとへの誇りと愛着を育て、地域社会に貢献できる人材を育てていきたいと思っております。

また 9 ページにも記載されておりますが、トークセッションでもご意見がありましたように、楽しいコミュニティ・スクールと、ここで示されておりますが、児童生徒、教職員、地域の皆さんが当事者意識を持って、本当に楽しみながらコミュニティ・スクールに参画し、あるいは学校や地域の課題を解決したとか、自分たちがそういった社会を変えることができたとか、こういうふうな実感が持てるような活動にもしっかりと取り組んでいきたいと考えておるところでございます。

こういった方針ができましたら、県教委としては、その方針に沿って、しっかりと人材育成してまいりたいと考えております。以上でございます。

【村岡知事】

ありがとうございました。

中学、高校段階での県外流出は深刻な問題でありまして、これを何とか食い止めるという観点も重要ですし、また特に医学部の進学希望者、医学部に行こうとしたら県外に行かな

ければならないということも、これも私どもよくお聞きをされていて、危惧をしておりますけれども、しっかりと、特に山口県は医師不足県という指摘をされております。文部科学省にも山口県の方に医学部に行ける枠を、広げて欲しいとお願いさせていただきましたけれども、全国平均医師の平均年齢が全国一高いということで、特に若いお医者さん少ないということなのです。

これから大変深刻な問題になってくる中で、しっかりとそうした道を目指す子が、山口県内に留まって活躍しようと思ってもらえれば、それができるような環境というのを作っていかねばいけないうらうと、そのように強く懸念しております。

それから ICT 化がこれからの時代、AI、IoT、これが当然社会の中で、ますます重要なものになってきます。そのために、教育の段階でしっかりとそういったのを、活用する力、そしてそれによってまた新しい価値を見出すとか様々な能力を皆さんのツールを通じて育んでいくということもやっていかねばいけないうらうと思ひます。

そしてまた、コミュニティ・スクールは来年度、全ての学校で整備されることですので、また新しいステージに、より充実した形を目指していければと思ひているところでございます。

是非、今の浅原教育長のお話もしっかり中に入っておりますけれども、具体的な形でまとめて実行できればと思ひます。ありがとうございます。

それでは、一通り皆さんの方から貴重なご意見をいただきまして、また具体的に推進方針をまとめる中で、しっかりと反映をしていきたいと思ひておりますが、まだ若干お時間ありますので、何か言い残したい部分や付け加えておきたい事はありますでしょうか。

【吉村委員】

先程、加登田委員さんがおっしゃった、基礎能力の中に感性が必要ではないかという意見に大いに賛同します。まさにそのとおりだと思ひます。

今の経済界の中では、論理的に答え、考えを進めていくという MBA 教育があつて、そういうもので出てくる答えというのもほぼ出尽くしており、ある一定のものに収束していきまふ。特に AI 等が出てくると、論理的な思考というのはほとんど AI に任せて、どの会社も同じ戦略をとってしまうというような可能性があります。

これから、企業というのはやはり他の企業と差別化をしていかねばならないという話になりますが、その差別化の要因になるのが、感性の部分だらうと思ひます。

その感性をいかにして磨くかというのが、今企業の中では非常に大きな課題として捉えておひまして、そういうものは、若いうちから教育のシステムの中に持つてくると非常に我々としてはありがたい。今ずっと左脳で、ビジネスをやっていますが、どれだけ右脳を刺激してビジネスを組み立てていくかというのが、これからの人間くさい経営の大きな課題になると思ひます。是非、感性というものを磨く、教育というものを取り入れていただくよ

うなことになれば、素晴らしいと思いました。

【村岡知事】

ありがとうございました。

AI等がどんどん進んでいく中で、左脳の部分はAIの方が優れているわけですから、人間だからこそできる部分は、右脳の方だということだろうと思います。

おっしゃったような感性を磨くということの重要性が、皆さんの話の中でも、重要であるということが、改めて認識できたなというふうに思います。

これからは教育からどういうふうにできるのかというところは、色々と難しい面もあると思いますが、よく他の事例ですとか様々なことを勉強しながら、良い形で実行出来ればと思います。ありがとうございました。他にいかがでしょうか。

【楠委員】

私も、経済界・産業界で感じることでですけど、やはり少し一歩深読みというか、歴史もそうですが、感性を磨くベースになるのが、何なのだろうかと。

海外の人と喋っていて、違うなと思うのは、やはり歴史認識にしても、正しい事実を言ういわゆる歴史の事実と、現代的意義というのを必ず彼らは持っていると思います。

日本人は歴史の事実は知っているけど、それは現在に置き換えたらどういう意義を、その事実から読み取れるかという一歩進んだところが少し弱い気がします。

これは訓練ですから、そういう歴史に対してはそういうことでありますし、絵画を見ても、これは何を訴えているか、何の意義付けている作者の意図があるか、これは感じる人によって変わってもきますので良いと思いますが、そうしたことがやはり感性とか、いわゆる自分たちにとっての環境に対する意義づけをできるという、独自性が出てくるんだなと思いますので、色々な意味で、現代的意義が将来的意義に繋がる話になります。やはり先人であり、今ある他人の人たちが作り上げている一つの訴えが、自分に置き換えたらか、社会全体置きかえたら、どういう意義付けができるかと。一歩深くというか、一歩置きかえるというような訓練が日本人にはちょっと少ない。ある事実に対して受身であるという話だけで終わって、今の自分にどう繋げていくか、今持っている地域の社会にどう繋げるかということが足りない気がします。

三宅先生からも本を色々いただいたりして読みましたが、山口県はやはりそのような歴史的に、この近代日本を作った歴史的な意義の出発点ではありますが、そこを単なる事実が起こっているだけじゃなくて、その意義がどのようになっているかということまで定着させていくようなところが、特徴ある人づくりに繋がれば幸いかなと感じます。

【村岡知事】

ありがとうございました。

【岡委員】

言われたことがすごく重要だと私も思っていますが、最初のこれからの時代に必要になる力で、他人を受け入れて協働する力は、他人を受け入れて協働するということがすごく重要で、やはりダイバーシティというのは、今までとは違う世界が出てくるということですので、表現の仕方も変える方がいいのかなと思います。それからもう一つは、社会を意識する力が、楠委員が言われた通りのことで、今までこういうことはあまり教育の中に書いてないのかもしれないですが、そこを考えていく力というのは、先程言いましたように、今からは地球全体を考える時代になりますから、小学校の頃からそういうふうな意識を持たした方が良いのではないかなと思います。

特に、新聞離れはとても激しいので、読書能力も非常に低下していますから、そういうところ意識させるにも何かもう一つ言葉がいるのかなと感じました。

【村岡知事】

わかりました。またここは少しいただいたご意見やご指摘について考えていきたいと思えます。

それから楠委員さんのおっしゃった事は、大変重要な点だと思います。事実を覚えるだけで止まるのではなくて、そこから先に自分や社会において、どのような意味があるのか意義があるのかということを考えていくというところが、まさにそれが学ぶことの本来の意味だろうと思います。そのようなことをますます意識して、教えていくというか、教育の中でそういったものを見つけていくことの重要性が、これからの社会において、必要になっていくのではないかと思います。ありがとうございました。

他にはよろしいですかね。

【三宅委員】

岡委員が言われました、この県内大学の協働ということですので少し事例も含めて紹介したいと思います。9月に至誠館大学で集中講義がありました。これは市民の皆さんへの開放で行いました。そうすると、萩のガイド協会の方がたくさん聴講に来られて、非常に熱心に聴講されました。これは生涯学習へも役立ったというふうには思っていますが、これを大学の枠を取り払って、講義を開放するというレベルでやれば、そのような岡委員の言われた、大学の協働ということで、少し貢献できるように感じました。

以上です。

【村岡知事】

ありがとうございました。

具体的な事例をご紹介いただきまして、またこれを県内で考えるときに、参考にさせても

らいながら、取り組んでいきます。何かよろしいでしょうか。

それでは時間も参りましたので、そろそろ閉会とさせていただきます。本日頂きましたご意見を踏まえ、また第三回のトークセッションが行われますので、それと総合教育会議での議論を踏まえて、素案を策定してまいりたいと思います。策定したものを改めて、皆様方にお示しをして、確認をしていただきたいと思います。そのように進めさせていただいてよろしいでしょうか。ありがとうございます。事務局の方でよろしくお願い致します。

最後に改めて本日、皆様方から大変貴重なご意見・ご提言賜りまして、本当にありがとうございました。心から御礼を申し上げます。

今いただいたご意見を踏まえまして先ほど申しましたように、新たな時代を担う人材を育成するための推進方針を策定していきたいと思います。

あと県で今年度、地方創生の道筋を示します第二期の総合戦略を策定するという事にしております。その中では、society5.0とか、最近よく言われている関係人口の創出・拡大とか、そうした新しい視点を取り込んでいくこととしておりますが、本県の人づくり、未来を支える人づくりについても、会議での議論をしっかりと県の総合戦略にも反映していきたいと思っております。

それでは、皆様に人づくり推進方針の策定、また今後の取り組みに向けまして、引き続きご意見・ご提言を賜りたいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

本日はお忙しい中、誠にありがとうございました。

【北村部長（事務局）】

以上で、第二回山口県新たな時代の人づくり会議を閉会いたします。

なお、素案については、11月中旬を目途にお示ししたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。本日はお忙しいところどうもありがとうございました。

以 上

※ 上記については、委員の了解を取っておらず事務局がまとめたものです。